

○委員長（井上宜久）

議案第30号 平成27年度開成町水道事業会計予算を議題とします。

水道事業会計予算の歳入歳出予算について、詳細質疑を行います。質疑をどうぞ。

山田委員。

○8番（山田貴弘）

8番、山田貴弘です。

367ページの一番上の貯蔵品の売却原価が計上されているのですが、これはどういう内容なのか、お聞きしたいと思います。

○委員長（井上宜久）

ちょっとお待ちください。

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

材料売却ということで、基本的には、水道工事で出ます既存に発生した水道管等で、その処分をしなければいけないもの、またコンクリート殻等が発生した場合に、そちらの部分で材料を売却するという形です。基本的には、水道管で発生する鉄くずの処分代ということです。

○委員長（井上宜久）

山田委員。

○8番（山田貴弘）

8番、山田貴弘です。

鉄くずの、要するに、鉄代として収益があると解釈していいのか、また、そういうものというのは貯蔵品として扱うのか、廃棄物として扱うのか、そこら辺、ちょっと明確にお願いします。

○委員長（井上宜久）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

こちらは支出になります。材料売却ということで、貯蔵品売却ということですが、でも、工事で発生したものを、一回、町の資産でありますので、そちらをプールしている形になっていますので、貯蔵品という形で、こちらの予算科目的には載せております。

○委員長（井上宜久）

山田委員、いいですか。

では、再度、答弁を、もう一度。理解されないようですから。

○上下水道課長（熊澤勝己）

こちらは貯蔵品の売却の支出になりますので、水道工事等で発生したときに、町の工事等で既存の管の布設替え等をしたときに、古い水道管、鉄くずになっているものにつきましては、業者が処分するのではなくて、町が一回、戻してもらう形になります。その辺の貯蔵品という部分で、貯蔵品という名前になります。売却になりますから、それを処分する、支出して、それを処分するという処分費の部分で、売却原価という形の中

で入れております。

○委員長（井上宜久）

山田委員。

○８番（山田貴弘）

８番、山田貴弘です。

いまいち、よくわからないのだけれども。なぜ、そんなことをやるのかというのが一つ疑問であります。最終的には業者で処分するのであれば、処分してもらえばいいのであって、貯蔵する意味と、それを貯蔵品売却原価として上げることでのメリットというのが、いまいち、ちょっと見えてこないのですが。これ保管するのに保管料も当然かかるわけだし、安全対策費等もかかってくるわけだから、撤去した時点、工事費の中で売却もしくは処分費として計上すればいいと思うのですが、そこら辺、ちょっと、いまいち流れがわからないので、それを１点聞きたいのと、あと１回しかないので、３６５ページの不納欠損の貸倒引当金、２５番で３１万１，０００円出ておりますが、ここら辺の予算計上して、予算というか決定だと思いますが、何件で、どのような状態なのかという報告をしてもらいたいと思います。

○委員長（井上宜久）

しばらくお待ちください。

ちょっと時間がかかるようですので、ほかに質疑はありますか。できましたら、先に、そちらを出していただきたいと思いますと思うのですが。

高橋委員。

○２番（高橋久志）

２番、高橋です。説明資料の７８、７９ページ。

○委員長（井上宜久）

ちょっと聞いていただけますか。１人、聞いていただけますか。

○２番（高橋久志）

検満メータの交換の関係で、予算が６９１万８，０００円計上されております。人口も増えておりますし、水道の加入者も増えているという状況をつかんで予算計上したと思うのですけれども、これ８年経過したものを交換すると説明がありました。今年度の予算に計上する、実態を含めて予算計上したと思うのですけれども、８年経過する検満メータを交換しなくてはならない個数的なものが前年と比べて増えているのかどうかの確認が一つございます。

それから、もう一点、お願いしたいのは、全般的な話になるかと思うのですが、水道事業会計は貸借対照表になっておりまして、３５４、３５５、これは平成２６年４月１日から平成２７年３月３１日、平成２６年度の損益計算書になります。私の質問は、これの当年度純利益と、それから前年度繰越剰余金等が金額が載っております。これを見ますと、安定的に水道事業が運営されて収入が増えて問題ないと捉えがちなのですけれども、課題はございますか。

○委員長（井上宜久）

今の、ちょっと先に上下水道課長、答弁お願いします。どうぞ。

○上下水道課長（熊澤勝己）

申しわけありません。まず、山田委員さんの貯蔵品売却原価ということで支出になりますけれども、こちらは、すみません、私が予算のところで間違っ。こちらにつきましては、町が保管しています水道の材料、そちらを処分したときに支出として捉える、結局、補充材料とか、そういうものを処分したときに、その処分した部分が資産としてなくなった部分で支出として捉える部分がありますので、こちらは当て金として、この金額を載せております。申しわけありません。

○委員長（井上宜久）

上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（石井直樹）

上下水道課、石井です。

答えが遅れて申しわけありません。山田委員の引当金の関係でございますけれども、過去5年間の平均の金額を予算計上として当てさせていただいております。過去5年でするので、ばらつきがありますけれども、平均が31万程度ということで見込んでおります。以上です。

○委員長（井上宜久）

山田委員の最初の貯蔵品の売却原価の流れは、いいですか。まだですか。

山田委員、もう一度。

○8番（山田貴弘）

8番、山田貴弘です。

まだ理解できないのですけれども、売却という部分がいまいわからなくなってきたのです。内容はわかりましたけれども、なぜ売却原価なのか、そこら辺をお聞きしたいのと、不納欠損の部分では5年間という。要するに、件数的には、どのぐらいの件数なのか、もうちょっと詳しくお聞きしたいのですが。

○委員長（井上宜久）

まだ2点、解決していないのですけれども。不納欠損の件と売却原価の流れ。

上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（石井直樹）

上下水道課、石井です。

件数につきましては、一応、平均で131件ということで見込んでおります。

以上です。

○委員長（井上宜久）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

売却原価のお話でございますけれども、あくまでも、これは経理上の問題でございます。要するに、貯蔵品として町で持っているストックしてある材料を処分するわけです。そうしますと、最終的な原価として残っている部分を、帳簿上、支出として落とす

必要があるということで計上しているということでございます。

○委員長（井上宜久）

山田委員、どうですか。まだわからないですか。

茅沼委員。

○7番（茅沼隆文）

茅沼です。ちょっと私なりに理解した、こういう方向でいいのか確認したい。貯蔵品というのは、原価が多分、1万円の原価の価値があるものだと思うのです。この1万円の価値がある原価のものを、どこかの業者の方に引き取っていただく、処分をする。ただで持っていつてもらう。したがって、この1万円の原価があったものが0になってしまうから、こういうふうに売却原価という水道事業会計上の文言で整理しているというだけの話ではないのかなと思う。一般的な会計の常識で理解すると、処分費用ということではないかと思うのです。それで合っていますか。

○委員長（井上宜久）

まちづくり部長、再度、明確な答弁をお願いします。

○まちづくり部長（芳山 忠）

助けていただいて申しわけありません。ほぼ、そういうことでございます。

○委員長（井上宜久）

高橋さんの質疑、もうちょっと待ってください。

上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（井上 昇）

上下水道課、井上です。

検満メータの個数、昨年度と比べまして266基減ってございます。こちらは先ほどもおっしゃられたとおり8年間たったメータの交換ということで、その当時、在庫したメータの数が若干少なかったということになってございます。

○委員長（井上宜久）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

高橋委員の最後のご質問の354、355ページの損益計算書から見る経営状況ということでございますが、こちらの損益計算書の記載のとおり、何とか黒字計上ということで安定的な経営はできるのかなと考えております。

ただ、課題という視点から見ますと、営業収入の中の受託工事収益が3,170万を計上しております。こちらの損益計算書上ですね。つまり、ほとんど経常利益を上回る額が、こちらの額と。これが0になるということはないわけですが、ある意味、これは設備投資用の資金というふうにも捉えられるわけでございまして、通常の給水収益の中で経常的な内容を全て賄っていくというのはなかなか厳しい状況もあるということで、将来的な耐震化の工事ですとか、あるいは今後の拡張工事とかといったもの、投資的な部分に対する費用というものを全て賄っていくのは、長期的に見ると、やはり節水の状況とかを考えますと、今後、厳しくなっていく可能性はあるとは見ております。

ただ、今期あるいは来期といった短期的なところでは、経営的には特に問題がないと考えております。

○委員長（井上宜久）

菊川委員。

○1 番（菊川敬人）

1 番、菊川です。359 ページの歳入の部分でお伺いたします。

02 の材料売却収益が10 万円、工事用材料売却とあるのですが、これは、さっきのと関係ないのでしょうね。詳細について、お願いいたします。

○委員長（井上宜久）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

先ほど、茅沼委員さんに助けていただいた部分はあるのですが、その歳入として帳簿上、入れておく収益が、この1 万円ということになります。

○委員長（井上宜久）

ちょっといろいろ答弁が不明確だったので混乱をしましたけれども、質問者、今までの中で再度お聞きしたいというあれはありますか。いいですか。

○8 番（山田貴弘）

……。

○委員長（井上宜久）

いや、それでは困るのですけれども。では、理解したということで。

そのほかに質疑はございますか。

（「なし」という者多数）

○委員長（井上宜久）

質疑がないようですので、では、以上で議案第30 号 平成27 年度開成町水道事業会計予算について、質疑を終了します。

本日は、ここまでとします。明日、12 日は午前9 時から開催します。なお、全会計の詳細質疑が終了しておりますので、説明員の方の出席は結構です。

これにて本日の予算特別委員会は散会します。大変お疲れさまでした。

午後4 時28 分 散会